

「学校における業務改善」

「志布志市立原田小学校」の実践紹介

効果が期待される取組

組織的・自律的な業務改善

実施前の課題

- 授業や会議及び学校行事等の準備に多くの時間を割き、勤務時間を大幅に超えて働くことが常態化していた。
- 職員数が少ないため、一人あたりの校務分掌の負担が大きかった。
- 放課後の会議が多く、教材研究の時間が取れなかった。
- 運動会等の学校行事に向けての職員や児童の負担が重かった。
- 業務改善について、学校全体で課題を出し合い、検討する機会がなかった。

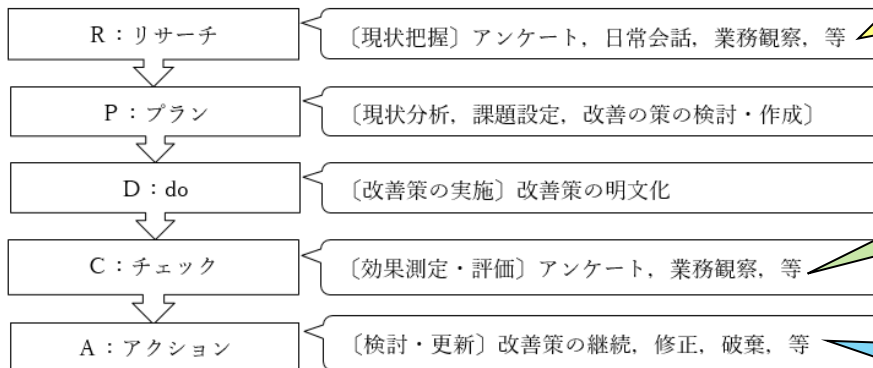


実施後の成果

- 勤務時間を意識することにより、業務の優先順位をつけ、計画的に効率よく仕事ができるようになった。
- 諸課題解決に向けて、チーム原田で取り組むことで個人の負担が少なくなった。
- 授業時数の平準化や校務分掌の公平分担により、負担感がなくなった。
- 会議資料を事前に回覧することにより、会議時間の短縮になった。
- 伝統や慣習によって行われていた行事等の廃止や見直しができた。

業務改善を目指した取組の詳細

1 業務改善のR-PDCAサイクル



【アンケートの視点】

- 1 業務分担の見直し
- 2 業務の進め方の改善
- 3 個別業務の精選・省力化の工夫

【測定と評価の場】

- 1 職員会議・担任会等
- 2 衛生推進委員会

【検討・更新の場】

- 1 学期毎の学校評価
- 2 教育課程編成会議

2 職員の声

- アンケートによる職員の要望や改善策の集約により、本校の課題が明確になった。
- 何でも話せ、職員一人ひとりの意見を大事にする雰囲気があるので、改善が進んだと思う。
- 管理職により「それは必要ですか？」の業務改善の視点が示されたことにより職員の意識が変化した。
(例1) 職員会議や担任会等で、業務改善を意識した行事内容の改善が検討された。
(例2) 教育課程編成において、教務や管理職に任せるのではなく、「自分たちの業務改善・学校作り」をしているという意識を強く持つことができた。
- 小さな改善と思われることも全職員で検討することで、自覚が促された。
- よい職場の雰囲気なので、きつい仕事も苦にならないこともある。

今後の課題、計画

- 学校、家庭、地域の役割を明確にするために、PTAや学校運営協議会との協議を進め、更に学校の業務改善に関する理解と協力を得る必要がある。
- 正規の勤務時間を月に45時間超える職員を0にするために、行事の2学期集中型から他学期への分散・移行や「かごしま学校応援団」等の地域ボランティアの協力を得る必要がある。